

標準委員会 リスク専門部会 外的事象 PRA 分科会
第 13 回 断層変位 PRA 作業会 議事録

1. 日 時：2019 年 8 月 22（木）13:30-17:00

2. 場 所：電力中央研究所大手町本部 7 階 711 会議室

3. 出席者（敬称略）：

【出席委員】糸井主査、蛭沢副主査、酒井幹事、青柳委員、奥村委員、織田委員、佐々木委員、高尾委員、仁平委員、田中委員、中村委員、原口委員、肥田委員（途中から）、松村委員、美原委員、吉田委員、渡辺委員、渡邊委員
（18 名：開始時 17 名）

【常時参加者】藤井、梅木、堤、湯山、成宮、（4 名）

【欠席委員等】神谷幹事、牟田委員、湯山常時参加者、福嶋常時参加者

4. 配布資料：

RK6WG5-13-0：議事次第

RK6WG5-13-1：前回議事録（案）

RK6WG5-13-2-1：標準委員会意見募集結果とその対応

RK6WG5-13-2-2：標準委員会意見募集結果とその対応

RK6WG5-13-3-1：箇条1-4

RK6WG5-13-3-2：解説

RK6WG5-13-4：外部事象 P R A 分科会コメント対応

RK6WG5-13-5：箇条5

RK6WG5-13-6-1～13-6-4：箇条6

RK6WG5-13-7-1～13-7-2：箇条7

RK6WG5-13-8-1～13-8-2：箇条8

RK6WG5-13-参考：委員名簿

5. 議事概要及び決定事項等

(1) 定足数の確認

議事に先立ち委員 20 名に対して、出席者 17 名で定足数（2/3 以上）を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録確認

提案通りの内容で正式議事録とした。

・特になし

(3) 実施基準に関する議論

① 標準委員会意見募集結果とその対応について

- 地震動と断層変位の重畳に関するコメントについては、特に必要とされる場合には簡易手法等で対応可能であることを追記することとした。
- 本標準では、原子力発電施設の重要施設周辺の地形・地質・地盤調査の実施を前提とすることから、副断層、及び表層付近に痕跡がない小規模地震により新たに生じうる主断層が対象となることを確認し、その趣旨がわかるよう修正することとした。
- 階層化、性能規定化等の内容については、リスク専門部会での検討状況に基づいて記載することとした。
- 対象範囲に関して、IAEA SSG-9 で **Capable Fault**（将来活動する可能性のある断層）に対してハザード評価を求めている件で、地震 PRA 実施基準の考え方、距離減衰式の適用の考え方、リスク評価の必要性等を簡潔に記載することとした。
- 解放基盤面からフラジリティ評価位置までの断層変位伝播の不確実さに関しては、不確かさを定量的に評価した上で、リスクの定量化手法を提示することが重要であることを確認した。

② 箇条 1～4 について

- 品質保証と用語の整合性、SSHAC の考え方との整合性・抗弁性のある解釈専門家による検証、不一致点の解消・明確化について適切に修正することとした。

③ 箇条 5 について

- 事故シナリオのスクリーニングの専門家判断、事故シナリオの明確化及び起因事象の特定、事故シナリオの概括的分析等に対する記載内容や取扱い方法について確認した。また、取扱う事故シナリオの整理や広範囲な事故シナリオの表現について検討した。

④ 箇条 6 について

- 主断層、副断層、**Capable Fault** の取り扱いに関するコメントの意図や記載内容等について論議し、断層変位ハザード評価位置の表層から解放基盤面への変換方法については、フラジリティ評価担当者へ記載方法を委ねることとした。

⑤ 箇条 7 について

- 原子炉建屋等の損傷の相関について論議し、損傷の相関（完全相関、部分相関）を評価する場所が限られており、感度解析で相関に関する記載内容を確認することとした。

⑥ 箇条 8 について

- 断層変位による機能喪失のモデル化、事故シーケンスのスクリーニング手法等の留意事項の記載内容について確認した。また、相関の取り扱いについて、相関の考え方、相関係数の設定、同時損傷確率を求める方法等の記載方法について論議した。フラジリティと事故シーケンスの相関係数の取り方について、現実的な相関係数が設定できるかを踏まえて、記載内容を調整することとした。

(4) その他（次回日程等）

○次回作業会 2019年9月26日（木）9:30～12:30

場所：電力中央研究所本部 733 会議室

以上